



ニ小だより

土浦市立土浦第二小学校

2012.2.13

<http://www.tsuchiura.ed.jp/~nisho/>

校長室の窓から

『陰暦2月の別名「如月」の語源には諸説があるが、寒さのためにさらに衣を重ねたところから「衣更着」という説がびったり』(いばらき春秋より)まさにその通りだと思いました。そして、その日の新聞には、袋田の滝が全面凍結した記事も載っていました。今年の寒さは、特別のように感じられます。

また、インフルエンザも猛威をふるっています。1月下旬から学級閉鎖を行わざるを得ないほどの流行、A型が一段落したと思ったら、今度はB型が増えてきました。集団で生活していると、どうしても罹患しやすい状況になります。学校では、手洗いやうがい(お茶うがいが有効)の励行、マスクの着用と予備マスクの常備、早めの休養と十分な睡眠を呼びかけています。外で元気に縄跳びをしている子どもたち、この元気な状態を卒業・修了式まで保っていくためにも、ぜひ、ご家庭のご協力をお願いしたいと思います。

今月は『体験学習』について書きたいと思います。

3学期になって、音楽の授業では弦楽器の演奏(5年生)、木管楽器の演奏(4年生)を生で体験、博物館見学(3・4年生)、体育館で仮設プラネタリウムを使った月の動きや星座の観察(4年生)など、いろいろな体験活動を行っています。1・2年生の学習は、身近な内容が多く今までの体験の中で理解できるものが多いのですが、教科書の文章だけではなかなか理解しがたいものが増える中学年は、体験学習はとても重要です。そして、高学年・中学生になると、体験しきれないものが増え、文献等を通して創造性を駆使して学習する内容になってきます。みなさんは、覚えがありませんか。四角形や三角形はよくわかるけど、円柱・角柱の辺の関係にとまどったこと、数字の世界は計算ができるけど、文字式になったとたん数学がわからなくなったことなど。子どもたちも同じで、身近にあるものや具体的なものはわかるけど、抽象的なもの未経験のものに対してはとまどい、躓いてしまうのです。ですから、なるべく具体物をもって学習をしたり、多様な体験を経て覚えることは大切だと考えています。少しずつれるかもしれませんが、学校で人のために働いたり挨拶をすることを学習しても、実際の社会の中で体験しないと身につくものではありません。また、家で掃除や料理の手伝いをしている子どもは、学校の清掃や調理実習の手際はすばらしいです。子どもたちに、実際のものを見せること、様々な体験をさせることはこれからの学習を支えるものにもなるし、学習したものを確かなものにするにもなると思います。これからは、体験学習を積極的に活用していきたいと考えています。



子どもたちが校外学習などを体験してきたとき、ぜひ、ご家庭でどんなことを見て体験してきたのか聞いてみて下さい。



弦楽器五重奏(5年生)

学校教育についてのアンケートより

「持久走大会の日にちなみ、早めに教えて欲しい」とのご意見について

持久走は大会ではなく、記録会として行っております。学年ごとに体育の授業時間として行い、保護者のみなさまの参観を前提とした運動会や音楽会のような学校行事ではありませんので、あらかじめの予定はお知らせしますが、天候等諸事情により変更した場合の連絡体制は完全ではありません。連絡帳等での連絡になると思いますので、ご理解をお願いいたします。

今年度の達成状況

教室でのようすや校庭で遊んでいるようす、清掃や委員会活動、先生方との話の中から次のことが今年度の達成されていることと捉えました。具体的なデータを挙げることはできないのは残念ですが、各家庭での子どもようすと見比べていただければと思います。

学習面では

ノートが充実してきました。

4月当初のノートと比較していただくと一目瞭然だと思えます。

- ・字が丁寧になりしっかり書けるようになった。
- ・ノートにまとめや考えが加わるようになった。
- ・行間が空けられ、見やすくなった。

下敷きを必ず使うように話しています。書く字に筆圧もかかるし、見栄えもきれいになりました。



聞く態度がよくなりました。

先生の話はもちろんのこと、友達の話聞く態度もよくなりました。

集会の時、話している人を見て聞いてくれるので、とても話がしやすいです。

『話を聞く』ことはすべての基本です。

家庭学習・自主学習の習慣化が図れました。

高学年では、家庭学習の計画が立てられたり、自ら考えて学習する子どもが増えました。低学年でも、宿題の忘れが少なくなり、一定時間家庭でも学習しようとする雰囲気が出てきました。先生の励ましや指導は子どもにとってうれしいものですが、ご家庭の協力もあって達成できたものだと考えています。

自分の考えを自分の言葉で表現できる子どもが増えました。

作文や考えを発表するとき、「おもしろかった」「楽しかった」というだけの表現では不十分です。理由やたとえなどを使って表現できるようになってきました。

生活面では

黙って清掃が身につきました。

黙って清掃する姿が自然になってきました。「手先手元を見て集中してきれいにする」を全校あげて取り組んできた成果です。

今後は「黙って物事を成し遂げる」よう、広めていきたいと考えています。



時間を守れるようになりました。

3学期は、チャイムは1日に3回鳴るだけですが、子どもたちは時計を見て生活できるようになりました。時計も昨年今年の2年間で電波時計をそろえ(バザーの収益金)、全校で時刻を正確に合わせるようにもしました。

正しい言葉遣いができるようになりました。

挨拶も含め、校内では正しい言葉や敬語が遣えるようになりました。校外でもできるように指導していきたいと思っています。

※靴箱の靴の整頓は、普通にできるようになりました。



整頓された靴箱

健康面では

校庭に出て遊ぶことができます。

持久走の練習や縄跳び期間だけでなく、校庭で元気に遊ぶ姿が毎日見られます。異学年や男女が一緒になって遊んでいるようすが見られ、とてもほほえましいことです。

自分の健康管理に気を配るようになりました。

マスクの着用や手洗いなど、自分から進んでできる子どもが増えました。毎日健康観察カードを記入することの習慣から身につけてきたものだと考えます。

給食を残さず食べるようになりました。

給食の時間を楽しい雰囲気にする、配膳の量を工夫することなどにより、全体の残菜量は減りました。無理強いではなく、嫌いなものが少しでも食べられるようになるとういことです。



これらは、子どもたちの意識の変化、先生方の励まし、ご家庭の協力があったことですが、子どもたちの委員会活動の活躍もその一翼を担っています。子どもたち同士でよい方向に向かおうとする、健全な学校の姿だと思います。

